

整備概要

昼飯大塚古墳は、平成21年度から4ヶ年をかけて保存整備します。整備は壊れた古墳の墳丘を修復したり、一部を築造当時の姿に戻すなど文化財の修復整備となりますが、都市公園としても環境整備されます。

前回の現地説明会（8月22日）以降に行った作業では、新たに前方部西側と北側で葺石や埴輪列を確認することができました（A区葺石1・葺石2・埴輪列）。また前方部西側1段目平坦目からは石で囲まれた埴輪棺がはじめて確認され、くびれ部の埴輪棺とともに当時の古墳利用と埋葬方法に新たな知見を得ました。

以上の成果は、前方部のこれまでの復元案を検証するとともに、今後の保存整備工事の重要なデータとなります。

A区：葺石1

前方部2段目の葺石とその基底石が確認できました。これにより前方部西側の復元ラインが確定し、これまでわからなかった斜面の角度もはっきりとしました。石材はこれまでどおり砂岩が最も多いことがわかります。



C区：埴輪棺

1段目平坦面で確認された埴輪棺です。もともと古墳に並べられた埴輪を抜き取るなどして、築造後に作られたものです。埴輪のまわりにはそれを固定したり、覆うための石が散在します。

古墳本来の1段目平坦面はこれよりやや高かったと推定でき、埴輪棺は地中に埋められていたと思われます。



A区：葺石2

陸橋と想定される部分につながる緩斜面で小振りな葺石を確認しました。



陸橋推定箇所

周壕

周壕

A区：埴輪列

2段目平坦面で確認されていた3個体に加え、新たに7個体が続いて確認されました。これにより前回課題とした埴輪の並びは一直線となり、2段目平坦面に並べられた埴輪と判明しました。



A区拡張区：埴輪列と葺石

3段目斜面の葺石と2段目平坦面の埴輪3個体を確認しました。これまでの調査区とはちがひ、地表面から浅いところで確認され、今後の保護処理が課題となりました。

